

## ◆参加報告◆

## 研修会に参加して

山田玲奈

2009年7月17、18日と、本社にて行われた第16回日赤図書室協議会の研修会に参加させていただきました。

図書室に異動してから4ヶ月。本の場所がわからず、利用者と一緒に書架をくるくる回り、下手すると利用者が先に目当ての本を見つけてしまう。些細な質問にもびくつき、利用者に何を聞かれても怖い。利用者の言葉（本の呼称・略称や医学用語）が聞き取れない。英語は文字というより模様に見える。カウンター席に座るのも居たたまれない数ヶ月でしたが、なんとか落ち着いて席に座っていることができるようになった矢先の研修会でした。

研修会自体はもちろん、同じ赤十字病院図書室の皆さんにお会いできることがとても楽しみであった反面、研修内容をしっかりと理解できるのか、皆さんのお話についていけるのかという不安もありました。

1日目の日本赤十字社医学図書館ポータルホームページの説明では、自分がこの数ヶ月で使っていた機能はほんの一部であり、利用の仕方次第に必要な情報にたどりつくまでの時間と労力が大幅に軽減されることがわかりました。利用者にとっても、図書室担当者にとっても、すばらしい機能がたくさんあり、講義中、すぐにでもホームページを見ているような機能を試してみたいという衝動に駆ら

れました。

石巻赤十字病院の羽田さん、前橋赤十字病院の塚越さんの事例報告もあり、貴重なお話をお伺いできました。日常、業務を行っていく上で、他の図書室の担当の方はどのように行っているのだろうか、自分では気がついていないやるべきこと・やっておくといいことはないか、などという疑問がたくさんありますが、なかなかこのようなお話を伺える機会はありません。経験も知識も乏しい私にとって興味のある内容ばかりで、勉強になりました。

2日目の研修では、公開講座と言うことで、3つの講座がありました。なかでも印象深かったのは、名郷直樹氏の『臨床のための情報検索～図書館員は患者のために何ができるか～』の講義で、医学図書館員が、利用者の求める情報により近づくための情報の整理方法、利用者との情報へのアプローチの仕方や具体的なデータベースの紹介などをさせていただきました。

大学で司書課程を受講していたものの、医学という専門分野の中、自分のレファレンス能力、知識の乏しさを毎日実感します。情報の引き出し方は間違っていないか、データベース、検索方法は利用者の探す情報へのアプローチ方法としてどうなのかといった不安はいつも付きまわっていました。そんな中で、臨床の現場にたっぴらっしやる“ドクター”からこのようなお話を伺うことができたのは、大変貴重な体験でした。

YAMADA Rena

静岡赤十字病院

library@shizuoka-med.jrc.or.jp

また、ついつい目の前の利用者ばかり目が行きがちでしたが、その先には必ず患者さんがいて、的確な情報を利用者に提供することは、診療の支援につながるのだということに改めて気づかされ、背筋が伸びるような気持ちになりました。

今回の研修で、目標となるもの、対応していかなければならない課題が見えてきました。また、研修内容はもちろんのこと、図書室の

担当の皆さんとお会いできたこと、お話ししたことも本当に勉強になり、とても良い刺激となりました。課題は山積みですが、ひとつひとつの仕事にちゃんと向き合い、一步ずつ成長していけるよう、今回の研修で学んだことを活かしていけるよう、頑張りたいと思います。

このような機会を与えていただき、本当にありがとうございました。